

令和の時代における 学校の「スタンダード」と「情報教育」

名古屋市情報教育研究会
会長 立花 賢修 (片平小)

これからの未来社会、Society 5.0時代に生きる子どもたちにとって、PC端末は鉛筆やノートと並ぶマストアイテムです。この社会を目前として、社会を生き抜く力を育み、子どもたちの可能性を広げるための役割を担う学校が、新しい時代に取り残されることは、絶対に避けなければなりません。



今年度より、GIGAスクール構想が本格的に実施されることになり、1人1台端末の環境は、もはや令和の時代における学校の「スタンダード」になることは必至です。

そして、これまで私たちが積み重ねてきた教育実践が、今回のICT環境整備によってどの学校のどの教室でも実現できるというベストミックスは、学校教育の劇的な変化をもたらすものとして、大きな期待が寄せられています。

私たち情報教育研究会では、この状況を真摯に受け止め、本市の子どもたちのために、これまで積み重ねてきた情報活用能力とICTを適切・安全に使いこなすことができるネットリテラシー等を身に付けさせる実践研究に、より一層取り組んでまいります。子どもたちが、持続可能な社会の創り手として活躍するために、情報活用能力という教育の根幹を支える研究会であり続けることを確認し、挨拶とさせていただきます。

■名情研 総会

今年度の総会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインでの開催としました。審議の結果、全ての提案事項について承認されました。

■今年度の研究

令和3年度 名古屋市情報教育研究会 研究主題

「子どもたちの学びを深める情報教育」

—主体的・対話的で深い学びにつながる情報活用能力の育成—

本研究会では、昨年度、授業の在り方が制限される中でも、情報を視点に沿って整理・比較し、自分の考えを構築する実践や、タブレット型コンピュータを活用して情報を共有し、自分たちの考えを深める実践を通し、情報活用能力を育成することができた。

今年度もサブテーマを昨年度に引き続き「主体的・対話的で深い学びにつながる情報活用能力の育成」と設定した。情報活用能力の育成とGIGAスクール構想を受けて、1人1台タブレットを使った、情報活用能力の育成について研究していく。



■研修会・研究発表大会について

★第1回研修会報告（6月16日実施）

○開催方式：オンライン（ZOOM）

○参加人数：70名

○研修内容

（1）タブレットを使った授業実践の紹介

「ロイロノート・スクールの機能や実践例の紹介、模擬授業」

（2）グループに分かれての、ICTを活用した授業イメージの共有

（3）タブレットの運用・管理に関する情報提供

○参加者の感想（一部抜粋）

- ・ 今回、初めてのロイロノート体験でしたが、楽しかったので、子どもたちもワクワクした気持ちで取り組めるのかな、と前向きな気持ちをもてました。
- ・ タブレット導入に対してネガティブな考えを持っていたが、ポジティブにタブレットの活用方法を学んでいこうと思えました。
- ・ タブレット導入に関してまだまだ不安なことが多いです。名情研からこれからも情報を発信していただけると助かります。



■「名情研Web」のご案内

「名情研の活動って?」「ICTを生かしたい」「もっと実践が見たい」

「名情研Web」では、名情研会員以外の方にも役立つ情報を発信しています。<http://www.meijoken.com/>

名情研

検索

■ 月刊「視聴覚教育」

月刊「視聴覚教育」(日本視聴覚教育協会)に、ラ平友、名信明は以下のご実践事例が掲載されます。

5月号：
7月号：
9月号：

5月号：
7月号：
9月号：
11月号：
1月号：
3月号：

表1 参加者のアンケート結果

